

基本方針

1. 法人理念実現のために 杉山寮、杉山ホーム、相談支援事業の連携と事業展開に全員一丸となって努める

*各事業間における(職員間の)連携を大切にするため、各人が「ホウレンソウ」という概念を念頭におきつつ仕事上の情報を共有することが原則だった筈が、勤務(時間)帯、休みの取り方等々により情報共有が出来ていなかった。また、コロナ禍の中、各研修会、各会議では「オンライン会議」(参加は楽で良いが内容の伝わり方が薄い?)が主流となっているが、研修/会議等の内容によっては対面でないと理解出来ないことがあると考える。主催者側、参加者側が共に会議の在り方を考え直す時期に来ていると思う。

2. 法人各事業をよりよく実現するために「勤務時間帯、休みの取り方(希望休み)」についての見直しを図る。

*職員が少ない中、勤務時間帯、希望休みの調整等の工夫をして各事業を進めていったところであり、目標に掲げた勤務時間帯、休みの取り方(希望休み)の見直しを図るまでには至らなかった。

3. 社会福祉法人すぎやまの家各事業の人材確保に努める。

*コロナ禍の影響もあり、なかなか人材確保が出来なかった。応募があっても適材適所(同性介護の原則より)とはいかず採用できなかった。また、夜勤専門で採用となった職員も長く続かず短期間で辞める結果となっている。(年度をまたがった。)人材確保の方策を考えなければならない。

杉山寮事業報告

1. 権利擁護と人権尊重

虐待防止委員会を本格的に立ち上げましたが、年間7回にとどまりました。外部の方にも参画していただき、寮内での困りごとに対しての助言を頂くなど行いました。7月には、虐待防止・権利擁護研修会として、評議員である辻様に講師を依頼し、法人役員の方を含め、全職員対象の研修会を実施しました。児童の話を中心に、当施設でも対応方法などを講演していただきました。11月には、ストレスケア研修を一般職員・管理職職員と分けて全職員対象の研修会も実施しました。

虐待と疑わしき事例が4件。当該利用者の支給決定市町に連絡し、聞き取り調査などを実施していただきました。4件とも不適切な事案という判定でありましたが、職員間の連携を強化するように指導が入りました。虐待防止委員会や家族会でも報告を行いました。

コロナウイルス感染が拡大し、終息が見えない状態で一年を過ごしました。今年度も利用者の安全を一番に考え帰省を中止、家族を交えた行事を全て中止し、職員利用者だけの行事に切り替えました。マスク着用についても施設内では未着用であるが、ドライブや買い物支援で市内に出かける際、ボランティアの方が施設内に入られる際は、マスク着用できる利用者には着用してもらっています。

2. 職員間の連携および人材確保に努める

令和2年度末に退職職員以降、女性の正規職員を確保できませんでした。令和4年1月中旬から男子夜勤専属職員が確保できたことを受け、職員の体制を少し変えながら利用者支援に当たることが出来ました。高島市小規模法人ネットワーク協議会による学生向けオンラインインターンシップをはじめ、年間通して就職フェアに参加し、呼びかけをおこなっていますが、就職につながる出会いはありませんでした。

職員間同士での話は少しずつできるようになっていると感じていますが、不適切な事案で市町より指摘があったように、利用者支援で困っていることなど、SOSを出せる環境がまだまだ整っていないことも現状です。声に出せない困りごとをキャッチできるようにしていきたいと思います。

3. 各事業との連携および地域との連携

短期入所については、コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら受け入れを行っています。高島市外からの短期入所受入については、PCR検査を実施し、陰性であることが確認できてから短期入所を始めてもらっています。またできる限り、マスク着用を促しています。高島市における地域生活支援拠点等事業に伴い、緊急短期入所を1度受け入れました。今回は杉山寮内での受入が困難であったために、グループホームでの受入を行いました。数日間実施しましたが、利用者に危険が及んだため退所していただきました。退所された利用者は、新型コロナウイルス感染症に伴う在宅困難者という形で別法人が受け入れ、数日間ではありますが、応援派遣という形で手伝いに行きました。

グループホーム体験利用を1名の方が実施しました。60歳を超える利用者であることもあり、グループホーム移行にはつながりませんでした。

コロナウイルス感染症対策を実施しながらではありますが、傾聴ボランティアを月1回、音読ボランティアを月2回、音楽ワークショップを月1回の受け入れを実施しました。

サービス利用の状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月末入所者数	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
入院	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※5/10～5/14 まで肺炎のため1名入院

12/4～12/10 右眼白内障手術の為1名入院 R4. 2/19～2/22 左眼白内障手術の為1名入院

施設入所支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ利用者数	870	899	900	930	930	900	930	900	925	930	838	930	10882

生活介護

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ利用者数	638	667	660	690	672	638	669	640	670	670	580	667	8531

短期入所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ利用者数	30	31	0	0	0	0	0	7	0	0	6	0	74

職員の状況（採用、退職等）

	施設長	付随職員	事務員	生活支援員	看護職員	栄養士	医師	調理員	計
年度当初人数	1	1	2	12	2	1	1	4	24
増員	0	0	0	1	0	0	0	0	1
減員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	2	13	2	1	1	4	25

人数（名）

利用者の状況（年齢、在所年数、障害、出身世帯との連携） ※3月31日現在

性別\年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計	平均
男	0	1	4	8	6	0	0	0	19	44.4
女	0	0	0	5	3	3	0	0	11	51.3
計	0	1	4	13	9	3	0	0	30	47.8

人数（名）

性別 \ 在所年数	1未満	1以上 3未満	3以上 5未満	5以上 10未満	10以上 15未満	15以上	計
男	0	0	4	2	3	10	19
女	1	0	0	1	0	9	11
計	1	0	4	3	3	19	30

人数(名)

身体障害の状況	肢体不自由	聴覚言語障害	視覚障害	内部障害	移動機能障害	その他	計
男	0	1	0	0	1	0	2
女	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	1	0	2

人数(名)

知的障害の状況	A	A2	B		その他	計
男	15	3	1		0	19
女	9	0	1		1	11
計	24	3	2		1	30

人数(名)

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	計	平均
男	0	0	0	2	10	7	19	5.3
女	0	0	0	3	4	4	11	5.1
計	0	0	0	5	14	11	30	5.2

人数(名)

精神障害の状況	1級	2級	3級				計
男	2	0	0				2
女	0	0	0				0
計	2	0	0				2

人数(名)

出身世帯との年間連携状況	0回	1回	2~5回	6~11回	12回~	計
面会・外出	10	2	18	0	0	30
外泊	30	0	0	0	0	30

人数(名)

日中活動

- ① 鉄道リネン下請け作業について。令和2年度5月以降再開の見通しが絶たない状況が続いており、一度再開の話が出たこともありましたが結果的に再開にはなりませんでした。新規下請け作業などを受け入れるなどを行う事をせずに一年を過ごしてしまいました。
- ② 屋外活動では寮周辺の歩行に取り組み、体力維持に努めました。またコロナ緩和時にはマスク着用の上、近隣の公園へ出かけて歩行しました。
- ③ 室内活動では個別支援に重点を置き、個々の特性に応じた作業物品の準備をしました。

紙漉き作業では、作品の完成はできませんでしたが、紙漉き作業の工程の一つである牛乳パック開きを日々行いました。開いたパックは乾燥させ班活動として黒田紙業へ搬入しました。

- ④ 活動班を設定し、ドライブなど寮外活動の機会均等化に役立てました。ドライブ外出や黒田紙業リサイクル活動、公園歩行などを行いました。
- ⑤ 行事の飾りや季節感ある飾りを共同で制作し、ホールなどに飾りました。
- ⑥ コロナ緩和時には、湖西ワークショップによる音楽活動、傾聴ボランティア、お話し会、勉強会などのボランティアによる活動を月1回程度の頻度で開催しました。

※月1回のワークショップは寮ホールで行われた。
 ※毎月スペシャルボックス日本滋賀高島、卓球およびバドミントンの練習会・大会の参加は中止。
 ※誕生者外出はコロナウイルス感染防止のため中止としました。

行事の状況

日付	内容	参加者		
		施設利用者	ホーム利用者	合計
R3. 4. 13	お花見外出	29	0	29
R3. 8. 22	納涼祭	30	0	30
R3. 9. 19	お楽しみ会	30	0	30
R3. 10. 17	運動会	30	2	32
R3. 12. 21	お楽しみ会	30	0	30
R4. 1. 18	新年会	30	0	30
R4. 2. 14	バレンタイン行事	30	0	30
R4. 3. 14	ホワイトデー行事	30	0	30

会議の状況

名称	参加者の職種	開催状況	主な内容
全体会議	全職員	毎月第4火曜日 09:30~11:30 全8回(次年度編成会議を除く)	・施設内虐待防止 研修及び協議 ・その他
生活棟会議	生活支援員 看護職員 サービス管理責任者	毎月第1月曜日 09:00~11:30 全12回(次年度編成会議を除く)	・直接支援内容に係る協議 ・その他
炊事会議	炊事主任 栄養士 調理員	毎月第1~2週 集まりやすい時間に協議 全9回	・行事食の検討 ・業務手順の見直し ・その他
相談・栄養 モニタリング 会議	相談支援専門員 サービス管理責任者	毎月1回以上実施 (各利用者年2回モニタリング) 全24回(次年度編成会議を除く)	・サービス等利用計画に係るモニタリングに資する会議 ・栄養ケア
運営会議	理事長	毎月1回以上実施 09:30~12:00	・法人と事業所の連

	管理職	全 13 回（緊急で招集 1 回あり）	携を目的とした会議
次年度 編成会議	理事長 全職員	2 月～3 月 全体会 3 回ほか各部署会議	・令和 3 年度の総括 ・令和 4 年度の組織 編成及び事業計画
給食会議	管理者・栄養士 炊事主任 主任生活支援員 看護職員	5 月、7 月、9 月、1 月 13：00～14：00 全 1 回（記録は 3 月のみ）	・自助具の検討 ・特食対応の協議 ・食事量の見直し ・その他

サービス評価

- 令和 4 年 3 月に全職員で取り組む。

研修報告

日付	研修	参加者
R3. 4. 24	スペシャルオリンピックス日本・滋賀 2021 年高島支部研修会	1
R3. 7. 6	第 1 回権利擁護部会研修会	1
R3. 7. 7	えにし滋賀の福祉人研修チームリーダープログラム 1 日目	2
R3. 7. 12	〃 2 日目	2
R3. 7. 26	〃 3 日目	2
R3. 7. 28	すぎやまの家 虐待防止・権利擁護研修会	29
R3. 8. 10	第 2 回権利擁護部会研修会	1
R3. 9. 3	令和 3 年度 第 1 回 知的障害者等支援にかかる研修会	2
R3. 9. 13	構造化のアイデアセミナー	1
R3. 9. 15	令和 3 年度 福祉職場におけるストレスマネジメントセミナー 1 日目	1
R3. 9. 24	事業所 BCP 手引作成（第 6 回）学習会	1
R3. 9. 27	滋児成協 「ストレスを軽減し、良好な人間関係を築くコミュニケーション」	2
R3. 10. 13	令和 3 年度 福祉職場におけるストレスマネジメントセミナー 2 日目	1
R3. 10. 21	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 1 日目彦根会場	1
R3. 10. 22	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 2 日目彦根会場	1
R3. 10. 24	スペシャルオリンピックス日本・滋賀 2021 コーチクリニック研修会	1
R3. 11. 5	令和 3 年度 第 2 回 知的障害者等支援にかかる研修会	1
R3. 11. 5	高島市介護サービス事業者協議会 メンタルヘルス研修	2
R3. 11. 9	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 1 日目大津会場	1

R3. 11. 10	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 2 日目大津会場	1
R3. 11. 15	令和 3 年度経営協青年部会研修 「シマウマの縞は白地に黒か、黒地に白か」	2
R3. 11. 19	アイサ大学 芸術活動支援のためのプログラム研修	1
R3. 11. 26	感染症対策セミナー（検定試験付き） 1 日目（講習）	2
R3. 12. 6	感染症対策セミナー（検定試験付き） 2 日目（検定）	2
R3. 12. 6	長期化する新型コロナに対する継続的な感染症対策について	2
R3. 12. 6	令和 3 年度 事業所内公正採用選考・人権啓発担当者等研修会 湖北	1
R3. 12. 6	障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン	1
R3. 12. 8	令和 3 年度滋賀県障害者虐待防止・権利擁護研修会 北部会場	2
R3. 12. 10	障害者施設従事者による障害者虐待防止にかかる意見交換会	3
R3. 12. 18	びわこ学園実践研究発表会	1
R3. 12. 23	改正育児・介護休業法等説明会 第 2 回	1
R3. 12. 23	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 1 日目彦根会場	1
R3. 12. 24	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 2 日目彦根会場	1
R3. 1. 20	令和 3 年度 事業所内公正採用選考・人権啓発担当者等研修会 大津	1
R4. 1. 21	令和 3 年度 管理者向けメンタルヘルス研修会	1
R4. 1. 25	令和 3 年度事業所内公正採用選考・人権啓発担当者等研修会 東近江	1
R4. 1. 27	第 58 回全国知的障害者福祉関係職員研究大会（京都大会）1 日目	1
R4. 1. 28	第 58 回全国知的障害者福祉関係職員研究大会（京都大会）2 日目	1
R4. 2. 2	令和 3 年度滋児成協 施設長研修会「災害について学び、考える」	1
R4. 2. 3	令和 3 年度 事業所内公正採用選考・人権啓発担当者等研修会 高島	1
R4. 2. 9	令和 3 年度 精神障がいへの理解と支援に関する研修会	1
R4. 2. 9	令和 3 年度 高島市福祉施設協議会研修会	1
R4. 2. 10	令和 3 年度 近畿経営者協議会 近畿ブロックセミナー滋賀大会	1
R4. 2. 15	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 実践研修 1 日目大津会場	1
R4. 2. 16	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 実践研修 2 日目大津会場	1
R4. 2. 17	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 実践研修 1 日目彦根会場	3
R4. 2. 18	2021 年度滋賀県強度行動障害支援者養成研修 実践研修 2 日目彦根会場	3
R4. 2. 22	第 40 回滋賀県社会福祉学会	1
R4. 3. 3	令和 3 年度実務研修会	1

R4.3.3	令和3年度成年後見制度・権利擁護普及啓発講座	2
--------	------------------------	---

家族との交流

《家族会》

出席人数（名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
総会・懇談会	0	0	0	0	0	0	0	13	14	0	0	0	27
面会（LINE電話会）	0	0	14	13	0	0	14	0	0	0	0	0	41

地域との交流

《ボランティア》

実施回数（回）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
傾聴	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	7
音読	2	2	2	2	0	0	2	2	2	2	0	2	18
ワークショップ	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	10
宝牧場パン	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3

傾聴ボランティア…7～8名、毎月1回（第2金曜日）

音読ボランティア…1名、毎月2回（隔週水曜日）

ワークショップ…本年度も事業所に講師の先生が出向き実施していただきました。

宝牧場パン販売…月1回 ※宝牧場の移動販売と調整が難しくなり、8月以降は中断となる。

看護の状況（感染症予防対策、定期健康診断の実施状況等）

事故報告書一覧

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
転倒転落	2	2	5	1	1	0	1	4	0	2	0	1	19
擦傷切傷	22	24	29	20	26	25	15	13	17	8	17	24	240
打撲内出血痕	8	16	20	16	27	27	27	20	16	12	10	10	209
発疹ただれ	1	0	1	2	1	2	0	2	0	1	0	0	10
皮膚炎発赤	1	0	5	2	4	6	4	3	2	3	2	0	32
噛み跡	3	4	10	4	6	5	6	3	6	4	3	9	63
爪剥がれ	0	0	1	2	2	0	0	0	0	1	0	1	7
火傷熱傷	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	4
自傷	2	3	3	3	8	3	3	3	6	5	2	5	46
誤嚥誤飲誤食	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
誤薬飲み忘れ	0	0	2	1	0	0	2	1	1	0	1	1	9
食中毒感染症 アレルギー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所在不明	1	0	1	0	3	1	0	1	0	0	0	0	7
てんかん発作	0	0	1	0	0	1	0	1	1	2	0	0	6
インシデント	5	5	11	2	0	5	2	2	2	1	1	0	36
ホールディング	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
物損	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3

県報告	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
合計	45	56	90	53	78	75	60	55	55	43	38	52	700

《事故報告書重複件数》

重複内容					
打撲・内出血 擦傷・切傷	15件	擦傷・切傷 自傷	9件	打撲・内出血 噛み痕	8件
転倒・転落 擦傷・切傷 打撲・内出血	8件	転倒・転落 打撲・内出血 てんかん	1件	転倒・転落 擦傷・切傷	6件
転倒・転落 打撲・内出血	6件	自傷 打撲・内出血	2件	擦傷・切傷 発疹・ただれ	1件
打撲・内出血 皮膚炎・発赤	1件	擦傷・切傷 皮膚炎・発赤	1件	合計 58件	

・計700件の事故報告があがっているが、その中で重複件数は58件報告されている。その中でも転倒・転落による受傷件数が増えてきており、老化による筋力低下も懸念される。新型コロナウイルスの影響で外出等制限されている中でも運動を取り入れた活動も考慮するべきと考えられる。

《緊急受診対応等》

日付	病院名	受診時症状
R3. 5. 1	マキノ病院	本人が立ち上がる際に転倒し、左脛尻を切傷。消毒後、ステープ [®] 1本貼用してガーゼ [®] 保護する。
R3. 5. 10	高島市民病院	全身熱感・少量の血痰・嘔吐 (+) にて、緊急受診 (救急車要請)。検査結果、右肺肺炎。入院し抗生物質投与となる。
R4. 2. 15	高島市民病院	防火戸で右足第2・3指を挟み、切傷し緊急受診。レントゲン撮影も行っても骨折は無い。局所麻酔後、各4針ずつ縫合。以降はマキノ病院へ受診と変更になり紹介状を書いて頂く。
R4. 2. 16	マキノ病院	整形外科受診。患部にイソジン消毒、ゲンタシン塗布後、ガーゼ [®] で保護。感染の可能性もある為、翌日も受診となる。
R4. 2. 17	マキノ病院	イソジン消毒、ガーゼ [®] ・包帯保護。抗生剤処方開始。
R4. 2. 19	マキノ病院	イソジン消毒、ガーゼ [®] ・包帯保護。問題なく歩けている。
R4. 2. 22	マキノ病院	イソジン消毒、ガーゼ [®] ・包帯保護。縫合部も問題ないとの事。
R4. 2. 28	マキノ病院	イソジン消毒、ガーゼ [®] ・包帯保護。2週間経過。
R4. 3. 3	マキノ病院	抜糸 (4本分) となる。第3指に関して、爪がつかない可能性があるとの事。又、切傷部が縫合不良の様で付着しない可能性あり。令和4年度へ通院持ち越す。
R4. 3. 19	あだち歯科 クリニック	玄関先で転倒し、前歯折れかける。受診後、抜歯。神経が露出した状態であった為処理して頂く。以降は協力歯科医へ引き継ぐ。
R4. 3. 28	たつなみ歯科	紹介にて受診。折れた歯の両隣の歯は大丈夫との事。歯茎に残つ

		ている歯も折れずに残っているとの事で、今後は差し歯の方向性で処置していくとの事。治療継続中
--	--	---

① 健康診断

・11月5日、滋賀保健研究センターに依頼して実施した。

②健康相談

・原則第2月曜日の午前中に嘱託医（今津病院 安藤医師・大野医師）が実施した。新型コロナウイルス感染症予防のため、電話での受診となる期間あり。

③歯科検診

・令和3年8月5日に実施した。

④ブラッシング指導

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月15日の一回のみ実施した。

⑤インフルエンザワクチン予防接種

・12月2日、主治医（嶺南こころの病院 高橋医師）に依頼して施設内で実施した。

⑥新型コロナウイルスワクチン予防接種

・第1回:7月14日・第2回:8月4日（角川クリニック 石川医師）に依頼して施設内で実施した。

⑦病虫害駆除

・7月30日・11月29日、ゴキブリ、ネズミに対する残留噴霧処理を実施した。

⑧受診状況

延べ受診者 891人	精神科	歯科	皮膚科	内科	整形外科	泌尿器科	眼科	消化器内科
	536	135	66	28	35	15	15	11
	乳腺外来	外科	耳鼻咽喉科	消化器外科	呼吸器科	循環器内科	糖尿病外来	神経内科
	6	26	3	2	3	1	5	4

⑨その他

- ・新型コロナウイルス感染予防の観点や緊急事態宣言があり、利用者様を連れての通院が困難な期間があった。
- ・嶺南こころの病院受診は4/15～7/29、8/12～9/30、1/27～3/31の期間は電話での受診となる。12/27・28、2/24は大雪による通院困難により予定していた通院を延期した。
- ・年々、高齢化に伴い体調の変化があり、通院せざるを得ない状況がある。今まで通っていなかった診療科に受診となるケースも増えてきている。

防災訓練、消防用設備等の保守点検状況

●消防訓練

2月3日（夜間訓練）と3月31日の2回実施した。

●保守点検

10月29日、㈱シガ技研による消防設備等の点検実施結果は異状なし。

11月30日、㈱東山による地下タンク貯蔵所の点検実施結果は異状なし。

給食の状況

	食堂利用に関して
給食利用人員	63人

食堂利用可能人員	46人
食堂利用人員が少ない理由	行事の参加、職員が交代制勤務のため。
食堂の環境づくり	個々が食事を摂りやすいよう、椅子に座布団やクッション、利用者が創作した織物を使用している。また、テーブルの透明シートの下には行事で作成したカードや、他利用者より貰った手紙を置き、常にリラックスのできる環境を作っている。食堂の環境に関しては、利用者の意見を聞き、不都合があれば席替え等を随時行っている。 コロナウイルス感染予防対策として、パーテーションの設置を行っている。視線が気になる方には不透明なパーテーションを使用してもらい、安心して食事を行える環境づくりをしている。
身体状況に応じた食事のための自助具等の活用	必要に応じて自助スプーン、スプーン、傾斜皿、食事用エプロン、皿の滑り止めシート、ペットボトル等を使用している。また特別食(減塩食、制限食、刻み食)にはトレイを用いて食事を提供している。
食事介助について	利用者の高齢化が進む中、常に利用者の食事摂取状況を把握し、他職種との連携を図り、食事の形態を変更し対応した。個人にあった食事量、食事形態の確認、見直しを随時行っている。

杉山ホーム事業報告

1. 権利擁護と人権尊重

法人全体で、7月に虐待防止・権利擁護研修会として、評議員である仕様に講師を依頼し、法人役員の方を含め、全職員対象の研修会を実施しました。児童の話を中心に、当施設でも対応方法などを講演していただきました。11月はストレスケア研修を一般職員・管理職員と分けて全職員対象の研修会も実施しました。

法人内で、虐待と疑わしき事例が4件。当該利用者の支給決定市町に連絡し、聞き取り調査などを実施していただきました。4件とも不適切な事案という判定でありましたが、職員間の連携を強化するように指導が入りました。虐待防止委員会や家族会でも報告を行いました。

コロナウイルス感染が拡大し、終息が見えない状態で一年を過ごしました。今年度も利用者の安全を一番に考え帰省を中止、市外への外出は、コロナウイルス感染が少し落ち着いている12月に職員と一緒に一度だけ外出を実施しました。約2年ぶりの市外への外出でした。

2. 職員間の連携および人材確保に努める

基本3名の職員が1名ないし2名で日々支援を実施しています。少人数での支援という事で、引継ぎをしっかりと行うようにしていますが、伝え忘れや理解できていなかったという事がありました。また職員確保が整っていない寮支援の補助も行っています。

3. 各事業との連携および地域との連携

コロナウイルス感染に気を付けながら、一般就労に勤めています。働き暮らし応援センターに職場との橋渡しをお願いし、交通機関がなくなる冬季間の就労時間を短縮してもらうなど働きかけていただきました。それにより、夜道を歩いて帰ってくるなど安全面に配慮できるようになりました。

体験宿泊を1名実施。高齢ということもありホームへ移行とはなりませんでした。

サービス利用の状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月末入所者数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
体験宿泊		1											1

※空き部屋を使って体験宿泊を実施。計画に上がって利用者の体験宿泊を2泊3日で実施。

共同生活援助

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ利用者数	120	124	120	124	124	120	124	120	124	124	112	124	1460

※4月1日付利用者1名入所、4月17日付利用者1名退所

職員の状況（採用、退職等）

	施設長	代管理責任者	事務員	世話人・生活支援員	計
年度当初人数	1	1	1	3	6
増員	0	0	0	0	0
減員	0	0	0	0	0
計	1	1	1	3	6

人数（名）

利用者の状況（年齢、在所年数、障害、出身世帯との連携） ※3月31日現在

性別\年齢	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計	平均
男	0	0	0	1	0	0	0	0	1	42
女	1	0	0	1	0	1	0	0	3	43.3
計	1	0	0	2	0	1	0	0	4	42.7

性別\在所年数	1未満	1以上 3未満	3以上 5未満	5以上 10未満	10以上 15未満	15以上	計	平均
男	0	0	0	0	1	0	1	13.0
女	1	0	0	0	0	2	3	16.3
計	1	0	0	0	1	2	4	14.7

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	計	平均
男	0	0	0	1	0	0	1	4.0
女	1	1	1	0	0	0	3	2.0
計	1	1	1	1	0	0	4	3.0

出身世帯との年間連携状況	0回	1回	2~5回	6~11回	12回~	計
面会・外出	3	1	0	0	0	4
外泊	4	0	0	0	0	4

※コロナウイルス感染症を受け、外出外泊は、一年を通して基本中止しておりました。

休日（余暇）の状況

コロナウイルス感染が拡大する以前であれば、休日になると各自市内または市外に買い物外出等へ行き、休日を楽しむという事がありましたが、コロナウイルス感染拡大に伴い、市外への外出が制限され、ホームの居室にて過ごすことが多くなりました。今年度は、少しでも休日に外に出かけ、リフレッシュできるようにと、畑を借りて作物を育てました。初めての畑ということもあり、手探りではありましたが春から秋にかけて畑にかかわりを持つことができ、外に出かける機会を増やしました。

行事（地域交流を含む）の状況

日付	内容	参加者	
		ホーム利用者	体験利用者
R3. 4. 4	花見ドライブ	4	
R3. 4. 11	区の掃除	2	
R3. 5. 22	苗植え	2	1
R3. 5. 22～24	ホーム体験受け入れ		1
R3. 6. 3	区の掃除	1	
R3. 7. 3	誕生日メニュー	4	
R3. 8. 22	食事会	4	
R3. 9. 11	テイクアウトランチ	4	
R3. 9. 18	カラオケ	4	
R3. 11. 7	テイクアウトランチ	4	
R3. 12. 11	守山外出	3	
R3. 12. 12	誕生日メニュー	4	
R3. 12. 17	守山外出	1	
R3. 12. 19	誕生日メニュー	4	
R3. 12. 30	ホーム忘年会	4	
R4. 1. 2	初詣	3	

会議の状況

名称	参加者の職種	開催状況	主な内容
ホーム会議	世話人兼生活支援員 管理者 事務職	全 12 回開催	利用者の状態報告及び支援についての意見協議

サービス評価

●令和 4 年 3 月に全職員で取り組む。

研修報告

日付	研修	参加者
R3. 7. 28	すぎやまの家 虐待防止・権利擁護研修会	3
R3. 12. 6	長期化する新型コロナに対する継続的な感染症対策について	1
R4. 1. 27	第 58 回全国知的障害者福祉関係職員研究大会（京都大会）1 日目	1

看護の状況（感染症予防対策、定期健康診断の実施状況等）

事故報告書一覧

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
転倒転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
擦傷切傷	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0
打撲骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹皮膚炎	0	0	0	1	1	0	0	0	2	1	2	2	9
火傷熱傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤嚥誤薬	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
食中毒感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所在不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
てんかん	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
インシデント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホールディング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	2	1	0	0	0	2	4	4	2	15

緊急受診対応

日付	病院名	受診時症状
R3. 11. 18	今津病院	発熱

① 健康診断

- ・嘱託医（今津病院 安藤医師）中止。
- ・11月5日 滋賀保健研究センター 1名
- ※就労利用者3名については、各事業所で検診を実施。

② 健康相談

- ・原則第2火曜日、午前中に計画予定あり。今年度は就労と重なり実施できず。

③ ブラッシング指導 ・春中止 ・秋実施 就労のため参加なし

④ インフルエンザワクチン予防接種 ・12月2日、主治医依頼して杉山寮内で実施

⑤ コロナワクチン予防接種

- ・高島市民病院にて医療従事者等として接種（利用者1名）
第1回：前年度、第2回：4月13日、第3回：12月24日
- ・角川クリニック医師による接種（利用者3名）
第1回：7月14日・第2回：8月4日、第3回：次年度

⑦ 感染予防対策

- ・館内 マスク着用 ・食事 パーティション使用 手洗い、手指消毒
- ・次亜塩素酸ナトリウム消毒
食 後：テーブル、パーティション
朝夕 2回：館内各部屋の取っ手、洗面所、手摺り、トイレ、玄関等
朝夕 1回：床、廊下
帰 宅 時：手指消毒、うがい、手洗い、マスクの交換

相談支援事業ひろかわ事業報告

相談支援を行っていく中で、利用者のニーズについて悩む機会が増えました。年齢により健康・体力低下されたりする中でも、外出への希望の声が聞かれています。コロナ感染予防の観点より外出の回数や場所も限定される。刺激も少なく良い面もあるものの適度な刺激があつてこそ楽しみもあるようにも思いながら対応しています。

1. 利用者個人の人生をより豊かに過ごしてもらえるように、「生活・活動・健康・余暇・家族・社会」での課題に向けて「気づき・考え・実行する・振り返る」をスローガンとして相談支援の役割を行っていきます。(障壁について、各種会議に参加し情報の共有し利用者個人に不利益がないように取り組む)

利用者にとって命を守るべき感染予防が必要な時期になりました。モニタリングの時期等、外出等の希望の声もある中で、社会参加する機会も少ない。刺激の少ない環境で、日々の活動・生活には、安定と並行して加齢に伴う衰えが増えている状況。課題について支援が増えている事を共有しました。

2. 利用者個々の課題を、事業所で解決できない事は地域課題として、市内自立支援協議会や相談連絡会等で発信し解決していきます。利用者の年齢による衰えに対して健康面・体力面・生活面等、医療等介護サービス利用に向けても連携が必要と考えます

利用者の情報共有に留まりました。医療との連携については、地域の病院と連携しながら早期治療に向けて対応できました。コロナ禍の対応や災害時の避難に向けた課題整理などもできました。加齢と共に障害等の重度化に対して、高齢分野との連携や学習会等の必要性があると情報共有しています。

3. 地域に必要となる福祉サービス事業所として、地域との関係構築に努めていきたいです。その一つとして社会資源であるスペシャルオリンピックス日本・滋賀 高島支部の運営に地域のコーチとして定期的に参加していきます

スペシャルオリンピックス日本・滋賀 高島支部のコーチとして参加しました。コロナ感染拡大防止の為、実施できない月も多かったです。それでも長年参加されるアスリートは、この機会を楽しみにされて欠席なく参加し地域の余暇支援として定着しつつあります。こうした状況の中でボッチャという競技を新たに体験的に取り入れています。気軽に楽しめる競技だったと感想もあり、次年度も引き続き体験実施できる機会に向けて調整していきます。

4. 個人の喜び・悲しみ・困り事等をプライバシーに配慮しながら、職員・利用者共に思いやりをもって話せる関係になれるように努力します。

職員の意見が出しやすい環境を考えた年でした。互いに気遣いながら支援するスタイルから利用者支援の向上を目指し主に虐待防止委員会でも意見を頂きながら実施してきました。